

甲 第 号

鴨門 大輔 学位請求論文

審 查 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	鶴屋 和彦
論文審査担当者	委員	教授	谷口 繁樹
	委員(指導教員)	教授	斎藤 能彦

主論文

Plasma Renin Activity Is an Independent Prognosticator in Patients With Myocardial Infarction

血漿レニン活性値は、急性心筋梗塞患者の独立した予後予測因子である

Daisuke Kamon, Hiroyuki Okura, Akihiko Okamura, Yasuki Nakada,

Yukihiro Hashimoto, Yu Sugawara, Tomoya Ueda, Taku Nishida, Kenji Onoue,

Tsunenari Soeda, Satoshi Okayama, Makoto Watanabe, Rika Kawakami,

Yoshihiko Saito

Circulation Journal. 2019 May 24;83(6):1324-1329

論文審査の要旨

急性心不全患者における来院時の血漿レニン活性（PRA）値は、長期予後と関連しているといわれている。本研究では急性心筋梗塞（AMI）患者においても、来院時の PRA 値が、長期予後と関連しているかどうかを検討している。

申請者は、AMI 発症後 48 時間以内に心臓カテーテル検査を施行し、生存退院した 936 例のうち、来院時に PRA 値が測定された 878 例を対象とした。来院時の PRA の中央値により対象群を 2 群（High PRA 群、Low PRA 群）に分類し、心血管死と心不全入院の複合エンドポイント（MACE）を評価した。4.5 年の観察期間で、MACE は 108 例であった。MACE の発生頻度は、High PRA 群において、Low PRA 群に比べて有意に高かった（15.9% vs 8.6%、 $P=0.0010$ ）。多変量解析において High PRA は、MACE の独立した予後予測因子であった（HR 1.573 ; 95% CI、1.049–2.396、 $P=0.0282$ ）。さらに、AMI 発症時に PRA に影響を与える RAS 阻害薬または β 遮断薬を内服していた症例を除外した 580 例を対象としても、High PRA は MACE の独立した予後予測因子であった（HR 1.732 ; 95% CI、1.010–3.047、 $P=0.0460$ ）。

本研究は AMI 患者において来院時の PRA の高値が、長期予後の規定因子となることを示唆した初めての報告である。公聴会では、経過フォロー中ほとんどの症例が RAS 阻害薬を内服したことより PRA が高値になっていたのではないかと、Angiotensin と予後の関係はどうであったか、などの質問に対し、実際には経過中の PRA は低値していた、Angiotensin と MACE との関連はみられなかったなど、適切に返答を行っていた。

以上より、本研究は医学博士の学位に十分値する非常に有益な研究と評価する。

参 考 論 文

1. Usefulness of longitudinal reconstructed optical coherence tomography images for predicting the need for the reverse wire technique during coronary bifurcation interventions.

Watanabe M, Okura H, Okamura A, Iwai S, Keshi A, Kamon D, Isojima T, Ueda T, Soeda T, Saito Y.

Catheter Cardiovasc Interv. 2019 Aug 1;94(2):E54-E60.

2. Progression of a Calcified Nodule Causing Acute Myocardial Infarction in a Patient on Hemodialysis – Serial Optical Coherence Tomography.

Sugiura J, Watanabe M, Toyokawa N, Kamon D, Isojima T, Ueda T, Soeda T, Okura H, Saito Y.

Circ J. 2019 Jan 25;83(2):490.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに循環器病態制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和2年6月9日

学位審査委員長

腎臓病態制御医学

教授 鶴屋 和彦

学位審査委員

循環・呼吸機能制御医学

教授 谷口 繁樹

学位審査委員(指導教員)

循環器病態制御医学

教授 齋藤 能彦